

時代とハートを動かす

SEIKO

2015 年 3 月期 中間報告書

2014 年 4 月 1 日～2014 年 9 月 30 日

# Report



 **PROSPEX**



**ASTRON**  
 **GPS®  
SOLAR**



 **Grand Seiko**

2014年8月ニューヨーク・セイコーブティック オープン

左:「セイコー プロスペックス」SBCZ021 (2015年1月発売予定)

中央:GPSソーラーウオッチ「セイコー アストロン」SBXB003 右:「グランドセイコー」SBGJ001

セイコーホールディングス株式会社

株主の皆さまにおかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。  
ここに2015年3月期の中間報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

第5次中期経営計画初年度である2014年3月期は順調に滑り出し、計画を上回る増収増益を達成することができました。

2年目にあたる当2015年3月期第2四半期累計期間において、ウオッチ事業では、国内における消費増税の影響という懸念材料があったものの、売上・利益ともに前年同期を上回る結果となりました。世界初のGPSソーラーウオッチ「セイコー アストロン」の売上は国内・海外ともに好調に推移しており、9月には機能とデザインをさらに進化させた第二世代を発売しました。8月にはニューヨークにセイコーブティックをオープンするなど、グローバル戦略をさらに加速させてまいります。

電子デバイス事業では、車載向けやスマートフォン向けの半導体が好調に売上を伸ばし、インクジェットプリントヘッド等の事業も順調に推移している一方、引き続き収益力のさらなる改善に向けた構造改革を進めております。システムソリューション事業では、7月にセイコーインスツル(株)のシステムアプリケーション事業をセイコーソリューションズ(株)に統合し、第三の支柱事業としてさらなる育成を図っております。

また、ブランドのイメージと認知向上のため、スポーツ計時・スポーツイベントへの協賛活動を充実させる他、8月には音楽イベント「Seiko presents Sound Inn "S" 音楽のじかん」を特別協賛いたしました。今後もセイコーのグループスローガン「時代とハートを動かす」のもと、スポーツと音楽を基軸にしたブランディング活動を一層強化してまいります。

2016年3月期の中期経営計画最終目標に向け、基本方針である「事業収益の最大化」と「経営基盤の質的強化」に引き続き取り組んでまいります。

株主の皆さまには、今後も一層のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2014年12月



代表取締役会長 兼 グループ CEO

服部 真二



代表取締役社長

中村 吉伸

## ■ 2015年3月期第2四半期の取り組みと成果

当第2四半期連結累計期間(2014年4月1日～9月30日)における世界経済は、米国では旺盛な個人消費支出を中心に底堅く推移しているものの、欧州ではドイツでロシア・ウクライナ問題を背景とした企業マインドの悪化が景気押し下げ圧力になるなど、景気回復に遅れが見られます。中国では景気刺激策の積重ねによる景気浮揚策に取り組んでいる一方、政府が主導する綱紀粛正などの影響もあって高所得者層の消費が弱含んでおり、全体としてやや軟調に推移しています。緊迫が続くウクライナ情勢やイラク情勢など地政学的な要因による景気の下振れリスクも多く、先行きには注意が必要と思われます。わが国の経済は、消費増税の影響による一時的な落ち込みに加え実質所得の低下を背景に個人消費が伸び悩む状況が続いています。百貨店業界で高級ブランドや宝飾品等の高額品を中心に前年度末の駆け込み需要の反動減が発生し、既存店売上の前年割れが続いております。電子デバイス・半導体市場ではスマートフォンや自動車向けの需要は拡大していますが、薄型テレビやデジタルカメラ向けなどで落込みが続いております。国内情報サービス市場は企業収益改善に伴う製造業等からの需要回復などにより堅調な成長となっております。

当社の当第2四半期連結累計期間の連結売上高は、前年度末に眼鏡事業が連結から除外されたことの影響などから、前年同期より86億円減少し、1,379億円となりました。事業別では、ウオッチ事業は国内・海外で順調に売上を伸ばし、電子デバイス事業では車載およびスマートフォン向け製品などが引き続き好調でした。システムソリューション事業の売上は前年同期より若干減少しました。連結全体で国内売上高は638億円(前年同期比6.5%減)、海外売上高は741億円(同5.3%減)となり、海外売上高割合は53.7%となりました。利益面では、前年同期と比べると一部の販売費及び一般管理費の発生が前倒しされたことなどにより、営業利益は前年同期から11億円減少し、75億円(前年同期比12.8%減)となりました。しかしながら、営業外収益が前年同期より改善し、経常利益は前年同期を9億円上回る77億円(前年同期比14.1%増)となりました。固定資産の売却益84億円を特別利益に計上し、電子デバイス事業における電子辞書等の事業撤退損5億円を特別損失に計上したことなどにより、法人税等および少数株主利益控除後の四半期純利益は132億円(前年同期比37.9%増)となっております。

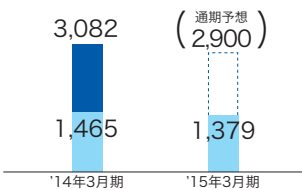
## ■ 通期の見通し

第2四半期までウオッチ事業が好調に推移している一方、システムソリューション事業の売上が伸び悩んだことに鑑み、連結合計での売上高、営業利益につきまして前回予想から変更はありません。なお、第2四半期までの為替環境の改善などにより、経常利益および当期純利益は前回予想を上回る見込みとなりました。以上より、通期の業績見通しを売上高2,900億円、営業利益160億円、経常利益140億円(前回予想130億円)、当期純利益250億円(前回予想170億円)といたしました。

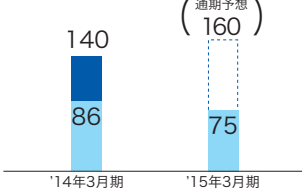
## 財務ハイライト

■ 第2四半期(累計) ■ 通期 ■ 通期予想

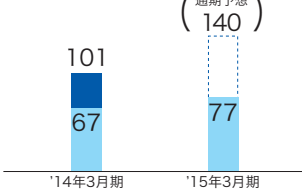
売上高 (億円)



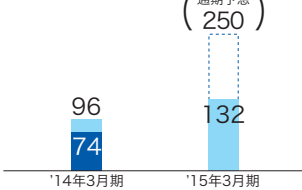
営業利益 (億円)



経常利益 (億円)



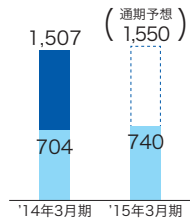
四半期(当期)純利益 (億円)



## ウォッチ事業

売上高 **740** 億円

売上高推移 (億円)  
■通期 ■第2四半期



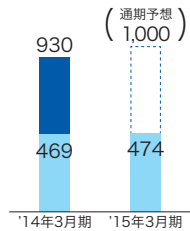
おもな製品 ウォッチ、ウォッチムーブメント

ウォッチ事業の当第2四半期連結累計期間の売上高は、前年同期比35億円増加の740億円(前年同期比5.1%増)となりました。国内では、高価格帯を中心に消費増税の影響で消費が落ち込む中、外国人観光客の増加などが売上の下支え要因となりました。メンズウォッチでは9月に第二世代モデルの発売を開始した世界初のGPSソーラーウォッチ「アストロン」や「メカニカル」が牽引し、レディースウォッチでは「ルキア」「ティセ」が売上を伸ばした結果、ウォッチ完成品全体としては前年同期を上回る売上高となりました。海外では、国内と同様に「アストロン」の売上が好調に推移しました。また、当期よりプロフェッショナル向けのスポーツウォッチ「プロスペックス」のグローバル展開も開始され、小売店頭におけるブランドの高品位イメージ訴求を推進するため8月にはニューヨーク・マディソンアベニューにセイコーブティックをオープンしております。これらの取り組みにより欧米では米国やフランス、ドイツなどで順調に売上を伸ばし、また、アジアでは政局混乱などによりタイで前年同期を下回りましたが、台湾などその他の市場で好調に売上を伸ばしております。利益につきましては、売上高の増加および売上総利益率の改善により営業利益は前年同期比3億円増加の80億円(前年同期比4.1%増)となりました。

## 電子デバイス事業

売上高 **474** 億円

売上高推移 (億円)  
■通期 ■第2四半期



おもな製品 半導体、水晶振動子、電池・材料、プリンタ、ハードディスクコンポーネント、カメラ用シャッター

電子デバイス事業は売上高474億円(前年同期比1.3%増)、営業利益10億円(同30.6%減)となりました。分野別には、半導体が車載向けやスマートフォン向け製品等を中心に好調に売上を伸ばし、プリンタ関連も順調に推移しましたが、電池、放射線計測機器などが伸び悩みました。



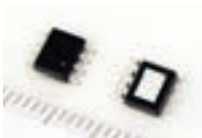
GPSソーラーウォッチ  
セイコー アストロン



セイコー ルキア



インクジェット  
プリントヘッド

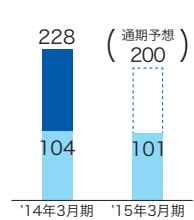


車載用  
ボルテージレギュレータ

## システムソリューション事業

売上高 **101** 億円

売上高推移 (億円)  
■通期 ■第2四半期



おもな製品 データサービス、情報ネットワークシステム

システムソリューション事業は売上高101億円(前年同期比2.5%減)となりました。ネットワーク機器および通信モジュール、オーダーエントリーシステムなどは堅調に推移しましたが、決済端末関連製品などが前年同期より売上を落としております。収益面では円安が一層進行したことなどにより営業損失67百万円(前年同期は80百万円の営業利益)となりました。



レストランオーダーリングシステム  
「MONSTERA」

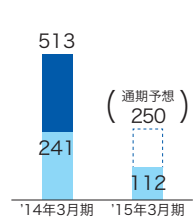


Netwiser ロードバランサ

## その他

売上高 **112** 億円

売上高推移 (億円)  
■通期 ■第2四半期



おもな製品 クロック、高級宝飾・服飾・雑貨品、設備時計 他

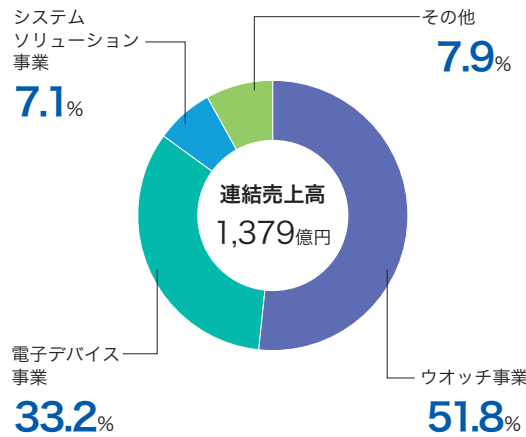
その他の売上高は112億円となりました。その他に含まれる事業では、クロック事業は消費増税の影響がある中でほぼ前年同期並みの推移となり、和光事業では宝飾等の高額商品を中心に期初に売上が伸び悩みましたが、夏場以降、回復傾向にあります。また、眼鏡事業が前年度末に連結から除外されたことでその他の売上高は大きく減少しております。営業損失は4億円(前年同期は1億円の営業損失)となりました。



衛星電波クロック  
セイコー スペースリンク

## 事業別売上高構成比

(2015年3月期第2四半期連結累計期間)



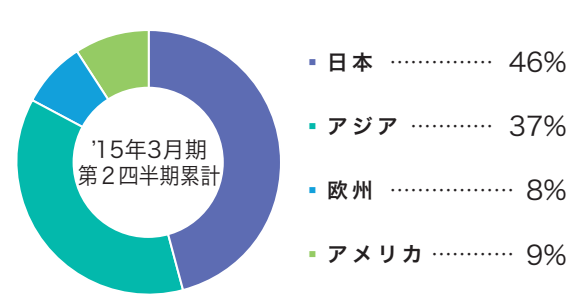
※上記の比率は、各事業間の内部売上高又は振替高調整後の数値に基づき算出しております。

四半期連結貸借対照表

(億円)

| 科 目     | 当第2四半期末<br>2014.9.30現在 | 前第2四半期末<br>2013.9.30現在 | 前期末<br>2014.3.31現在 |
|---------|------------------------|------------------------|--------------------|
| 【資産の部】  |                        |                        |                    |
| 流動資産    | 1,728                  | 1,590                  | 1,583              |
| 固定資産    | 1,876                  | 2,059                  | 2,083              |
| 資産合計    | 3,605                  | 3,649                  | 3,667              |
| 【負債の部】  |                        |                        |                    |
| 流動負債    | 1,603                  | 1,644                  | 1,662              |
| 固定負債    | 1,115                  | 1,430                  | 1,357              |
| 負債合計    | 2,718                  | 3,074                  | 3,019              |
| 【純資産の部】 |                        |                        |                    |
| 純資産合計   | 886                    | 574                    | 647                |
| 負債純資産合計 | 3,605                  | 3,649                  | 3,667              |

地域別売上高構成比



地域別売上高構成比では、アジアの割合が増えています。連結全体では、海外売上高比率は前年同期とほぼ同水準の53.7%(0.3%増)となりました。

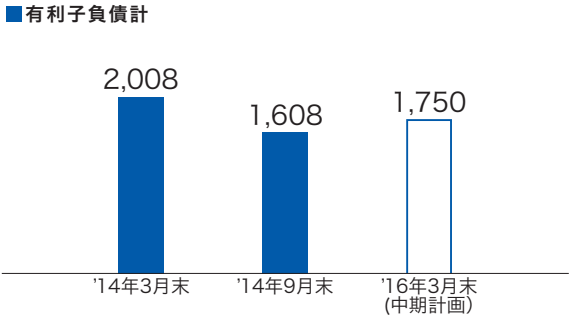
四半期連結損益計算書

(億円)

| 科 目              | 当第2四半期<br>(累計)<br>2014.4.1から<br>2014.9.30まで | 前第2四半期<br>(累計)<br>2013.4.1から<br>2013.9.30まで | 前期<br>2013.4.1から<br>2014.3.31まで |
|------------------|---------------------------------------------|---------------------------------------------|---------------------------------|
| 売上高              | 1,379                                       | 1,465                                       | 3,082                           |
| 売上総利益            | 491                                         | 499                                         | 1,035                           |
| 営業利益             | 75                                          | 86                                          | 140                             |
| 経常利益             | 77                                          | 67                                          | 101                             |
| 特別利益             | 84                                          | 56                                          | 105                             |
| 特別損失             | 5                                           | 6                                           | 119                             |
| 税金等調整前<br>四半期純利益 | 155                                         | 117                                         | 87                              |
| 四半期純利益           | 132                                         | 96                                          | 74                              |

有利子負債

(億円)



9月に当社所有の土地・建物(東京都港区)を売却し有利子負債の削減を進めるなど、財務体質の改善を進めた結果、第5次中期経営計画の最終年度の有利子負債圧縮目標額を前倒しで達成しております。



## セイコーの腕時計が国内外で権威ある賞を受賞

セイコーは1913年に国産初の腕時計を発売して以来、革新的な商品を次々と世に送り出すとともに、たゆむことなくそれらを磨き上げてきました。今回の受賞を契機に、創業者・服部金太郎の言葉である「常に時代の一步先を行く」腕時計づくりをさらに進めてまいります。

### セイコーミュージアム所蔵の「セイコー国産腕時計3点」が2014年度「機械遺産」に認定

1913年国産初の腕時計「ローレル」、1960年世界最高水準の精度の「初代グランドセイコー」、1969年世界初のクォーツ式腕時計「クォーツアストロン35SQ」が、日本が誇る精密機械技術の発展過程を知るための象徴的な遺産として、7月に(社)日本機械学会の2014年度「機械遺産」※に認定されました。

※機械遺産とは  
日本の機械技術や産業の発展に重要な成果を示し、国民生活や文化に貢献した歴史的な意義を持つ機械関連技術遺産を、文化的遺産として次世代に伝えることを目的として創設されたもの



ローレル 初代グランドセイコー クォーツアストロン35SQ

### 「グランドセイコー」メカニカルハイビート36000GMT限定モデル(6月発売)が2014年度ジュネーブ時計グランプリ「プティット・エグ्यूーユ」部門賞受賞

11月、世界の時計業界で最も権威のあるジュネーブ時計グランプリにおいて、8,000スイスフラン(約95万円)以下の時計を対象とした「プティット・エグ्यूーユ」部門賞を受賞しました。セイコーとして通算3度目の部門賞受賞となりますが、今回は特に、メイドインジャパンのメカニカルウオッチとして初という、価値ある受賞となりました。



CLOSE UP

#### ウォッチデザイナー小杉修弘(セイコーインスツル)が「卓越した技能者(現代の名工)」に選定

“実用時計の最高峰”グランドセイコーに長年携わり、工業製品の意匠を手掛けるプロダクトデザイナーとして初の受賞(11月)。製造や金属加工技術を熟知し、フォルム・着け心地・視認性を極限まで追求することで、日本の腕時計の機能美を確立しました。また、設計者や技術者の育成に関する功績が認められました。





特集2

第三の支柱事業へ

## システムソリューション事業が本格スタート



システムソリューション事業の拡大を目指し2014年7月、  
セイコーソリューションズ(株)は、  
セイコーインスツル(株)のシステムアプリケーション事業を統合。  
これにより、スピード感を持ってお客さまにより良いソリューション  
を提供する体制を整えました。

当社グループはウオッチ事業・電子デバイス事業に次ぐ  
第三の支柱事業として「システムソリューション事業」の  
市場成長性を見据え、さらなる育成を目指して2013年  
4月にセイコーソリューションズ(株)を設立しました。

今回の統合によって、セイコーソリューションズ(株)が  
持つ「システムインテグレーション」「金融・決済ソリュー  
ション」「ネットワークソリューション」の3つの軸と、セイコー

インスツル(株)のシステムアプリケーション事業が持つ「無線  
技術」「端末開発」「決済センターサービス」を、ワンストップ  
で提供する体制を構築し、スピード感を持ってお客さま  
により良いソリューションを提案します。また、各社が持  
つリソースの融合によるシナジー効果を発揮し、より高  
付加価値な製品・サービスの開発に邁進します。

詳細はHPで → <http://www.seiko-sol.co.jp>

セイコーソリューションズ

検索

### ●事業紹介●

## NETWORK

ネットワークソリューション



時刻同期やレガシー通信など、  
つなぐ技術を極めた製品で信頼と安心を生む

ネットワーク上のマシンに標準時刻を高精度に配信する「タイムサーバ」、既存  
のレガシー通信に対応しシームレスな情報の一元化を図るマルチプロトコルコン  
バータ「USTシリーズ」、イーサネット上で確実に通信するための各種ネット  
ワーク機器など、信頼性と安定性の高い自社開発製品を提供。情報と情報を  
快適につなぎ、新たな価値を提供します。

## SI

システムインテグレーション



顧客・市場に密着した対応で、  
ICTソリューションをトータルに提供

総合ビル管理システムをはじめ、省エネを実現するエネルギー管理システム、外食  
店舗オペレーションをサポートするレストランオーダーリングシステム、デジタル情報  
に電子署名とタイムスタンプを付与するデジタルエビデンスソリューションなどを  
提供。お客さまに密着し、市場のニーズを深掘したソリューションを提案します。

## MOBILE

モバイルソリューション



M2M市場をリードする  
モバイルソリューションベンダーを目指す

長年培ってきた無線技術と小型化技術を駆使し、M2M市場における先駆的な  
製品を提供しています。国内初のLTE3バンドに対応したM2M通信モジュール  
や通信モジュール組み込み機器を軸に、運用サービスまで拡大。さまざまな業種  
の課題解決を図る、モバイルソリューションベンダーを目指します。

## PAYMENT

決済ソリューション



お客さま視点で決済ニーズに応え、  
端末からサービスまで一貫してサポート

お客さまにとって最適な決済ソリューションをトータルに提供しています。非接触  
IC用端末の開発から、企業間の電子商取引を支える決済パッケージソフト  
の販売、タクシーや訪問販売における無線カード決済サービス「CREPiCO  
(クレピコ)」を提供。さらに情報処理センターの運用まで一貫してサポートします。

ニューヨークに  
セイコーブティックをオープン



セイコーウオッチ(株)では高級流通開拓、商品力・広報宣伝活動の強化と併せ、世界の主要都市にてセイコーブティック出店を進めています。

8月19日には、アメリカ国内で初の直営店を、世界の一流時計ブランドが集まる高級ショッピング街であるマディソンアベニューにオープンしました。アストロンやグランドセイコー、プロスペックスといった中・高価格帯商品を揃え、セイコーの良さを直接体験できる場として注目されています。

今後も海外でのブティック展開を積極的に進め、ブランド価値の向上を目指していきます。

510 Madison Avenue, between 52nd & 53rd,  
New York, NY 10022

「Seiko presents Sound Inn "S"  
音楽のじかん」を特別協賛



8月に赤坂BLITZで開催された音楽イベント「Seiko presents Sound Inn "S" 音楽のじかん」を特別協賛しました。

1970年代にセイコーの一社提供で放映していた「サウンド・イン "S"」を、上質な音楽を追求したコンセプトを維持しつつ、幅広い年代の方々に向けて、現代化したステージイベントとして復活させ、この模様は地上波やBSのテレビ番組として放映されました。

セイコーのグループスローガン「時代とハートを動かす」のもと、今後もスポーツと音楽を基軸にしたコミュニケーション活動を通じて、皆さまに豊かな時間を提供してまいります。

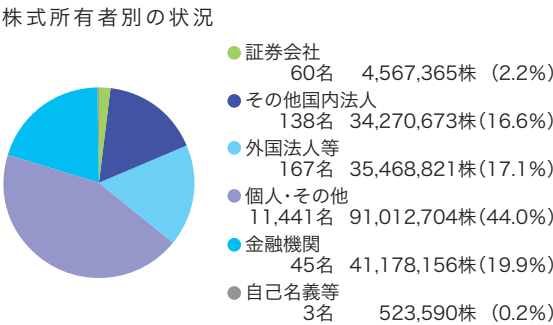
会社情報

| 会社概要   |                                                                  |
|--------|------------------------------------------------------------------|
| 社名     | セイコーホールディングス株式会社                                                 |
| 創業     | 1881年(明治14年)                                                     |
| 資本金    | 100億円                                                            |
| 従業員数   | 110名(単体)<br>13,515名(連結)                                          |
| 本店所在地  | 〒104-8129<br>東京都中央区銀座四丁目5番11号                                    |
| 本社所在地  | 〒105-8505<br>東京都港区虎ノ門二丁目8番10号<br>虎ノ門15森ビル<br>電話：03-6739-3111(代表) |
| WEBサイト | http://www.seiko.co.jp                                           |

| 役員                |        |
|-------------------|--------|
| 代表取締役会長 兼 グループCEO | 服部 真二  |
| 代表取締役社長           | 中村 吉伸  |
| 常務取締役             | 内藤 昭男  |
| 取締役               | 梅本 宏彦  |
| 取締役               | 高橋 修司  |
| 取締役               | 大熊 右泰  |
| 取締役               | 村上 斉   |
| 取締役               | 石井 俊太郎 |
| 取締役               | 藤井 美英  |
| 取締役               | 土居 聡   |
| 取締役               | 原田 明夫  |
| 常勤監査役             | 鈴木 政利  |
| 常勤監査役             | 三上 誠一  |
| 監査役               | 森田 富治郎 |
| 監査役               | 山内 悦嗣  |
| 監査役               | 青木 芳郎  |

株式情報

| 株式の状況    |              |
|----------|--------------|
| 発行可能株式総数 | 746,000,000株 |
| 発行済株式の総数 | 207,021,309株 |
| 株主数      | 11,854名      |



※自己名義等は、自己名義株式(266,181株)および当社関係会社が所有する株式です。

| 配当情報     |            |
|----------|------------|
| 当中間配当    | 1株当たり2.50円 |
| 期末配当(予定) | 1株当たり5.00円 |

| 株主メモ               |                                                                               |
|--------------------|-------------------------------------------------------------------------------|
| 証券コード              | 8050                                                                          |
| 上場証券取引所            | 東京証券取引所 市場第一部                                                                 |
| 決算基準日              | 3月31日                                                                         |
| 期末配当金の基準日          | 3月31日                                                                         |
| 中間配当金の基準日          | 9月30日                                                                         |
| 株主名簿管理人および特別口座管理機関 | みずほ信託銀行株式会社                                                                   |
| 同事務取扱場所            | みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部<br>東京都中央区八重洲一丁目2番1号                                       |
| 郵送物送付先<br>お問い合わせ先  | みずほ信託銀行株式会社 証券代行部<br>〒168-8507<br>東京都杉並区和泉二丁目8番4号<br>電話：0120-288-324(フリーダイヤル) |
| 公告の方法              | 電子公告 ただし、やむを得ない場合は日本経済新聞に掲載します。                                               |

## ■ 主な国内連結子会社

セイコーウオッチ株式会社

セイコープレジジョン株式会社

セイコークロック株式会社

セイコーインスツル株式会社

セイコーNPC株式会社

株式会社 和光

セイコーネクステージ株式会社

セイコーソリューションズ株式会社

セイコータイムシステム株式会社

## ■ グローバルネットワーク (当社を含む連結会社数)



セイコーホールディングス株式会社

〒105-8505 東京都港区虎ノ門二丁目8番10号

電話 03-6739-3111(代表)

